

# ディベート(本番)をするに当たって

## ディベートの目標

試合での選手の目的は、決して「対戦相手を言い負かす」ことではありません。議論を通じて「第3者であるジャッジ(審判)を説得する」こと、これが最大の目標です。

## 選手とジャッジの配置

質疑を除いて、すべてのスピーチは正面の論壇に立って、ジャッジの方を向いて行います。説得の対象は対戦相手ではなく、ジャッジであることを意識しながら話してください。



## 留意すること

- ・選手は役割分担に従って、ディベートを行ってください。
- ・発表会ではありませんから、丸暗記したものを話しているだけではお互いの理解は深まりません。あまり緊張せず、ふだんの気軽な気持ちで議論をし合うことが重要です。
- ・ジャッジは公平な立場で行い、私情を入れてはいけません。  
(仲の良い友人が出ているから良い評価を付けた、というのではディベートになりません。また思い込みや先入観で判定するものでもありません。肯定派・否定派双方の立場を客観的に検証し、観点項目に沿って評価をしてください。ジャッジしている自分自身の視点そのものの理解を深めることにもつながります。)
- ・自分の役割が終わっても、静かに話しを聞くことは、最も基本的なマナーです。  
(このことについても観点項目の姿勢・態度に含まれ、評価されます。)  
ヤジをとばすことで相手を威嚇したり、煽動したりする行為も反則行為です。
- ・質疑に対しては、相手方の誰が答えても結構です。